

第31回
舞踊公演

東西名流舞踊鑑賞会

第一部 午後1時開演

地歌 越後獅子 山村若峯董

長唄 黒髪 榎茂都梅咲

長唄 木賊刈 吉村輝章

地歌 石橋 山村若

長唄 影法師 井上八千代

第二部 午後4時30分開演

長唄 二人猩猩 若柳吟
若柳吟寿々

清元 文売り 藤間良太郎

清元 豊後道成寺 中村梅彌

常磐津 古山姥 花柳與

創作 御柱祭 〈弧の会〉

市山松扇 泉徳保
猿若清三郎 西川扇衛仁
西川大樹 花柳榮輔
花柳基 藤間勘護
藤間仁凰 若柳里次朗

平成25年

10月12日 土

〔地方〕杵屋東成・杵屋勝禄連中／清元美寿太夫・清元美治郎連中
常磐津一佐太夫・常磐津都長藏連中／菊原光治社中／澤千左子
〔囃子〕藤舎呂浩連中

予約開始 9月11日(水)午前10時～

〈電話〉国立劇場チケットセンター〔午前10時～午後6時〕

☎0570(07)9900 ☎03(3230)3000 [PHS・IP電話]

〈インターネット※一般のみ〉<http://ticket.ntj.jac.go.jp/>

入場料金 一般6,500円・学生4,600円

〈第1部・第2部セット割引11,000円〉

※障害者の方は2割引です(一般のみ)。

窓口販売開始 9月12日(木)チケット売場〔午前10時～午後6時〕

国立文楽劇場 (大阪)

〒542-0073 大阪市中央区日本橋1丁目12番10号
☎06(6212)2531(代)

<http://www.ntj.jac.go.jp/>

関西から

文化力
POWER OF CULTURE

第31回 舞踊公演

東西名流舞踊鑑賞会

上方の舞踊、古典と創作の名曲が揃う至高の鑑賞会

第一部は上方四流(井上、榎茂都、山村、吉村)の代表者が顔を揃え、風情あふれる上方舞踊の世界を、そして第二部では、東京および関西の名手たちによる豪華な競演をお楽しみいただきます。なかでも掉尾を飾る「御柱祭」は実力派の男性舞踊家たちのパワーみなぎる群舞で、待望の大阪初上演です。例年とはひとあじ違う番組構成で、古典と創作の両方から舞踊の奥深い魅力に迫ります。

第一部 午後1時開演

地歌 越後獅子

越後獅子とは、正月に越後からやつて来て大道芸を見せ人気を呼んだ角兵衛獅子のことで、流祖山村友五郎振付。古風な赤い獅子頭を持って、素朴に品よく舞います。山村若峯董は素踊りに定評のある実力派です。

長唄 黒髪

同名の曲は地歌にも伝わり、成立の前後は不詳です。哀切な美しい節づけて複雑な女心をしつとりと表現しています。榎茂都流理事で、長年にわたり関西舞踊界を支える重鎮、榎茂都梅咲が艶やかに舞います。

長唄 木賊刈

木賊(低草)は乾燥させて研磨に用いた植物です。また木賊刈は秋の季語。原拠は謡曲で、園原山の情景描写から、鎌を手にした老翁があらわれて老いの清澄な心を舞います。吉村流六世家元吉村輝章による円熟の舞台です。

地歌 石橋

石橋物の歌舞伎舞踊を座敷で舞うよう仕立てた曲。作詞は女方の名優、初代瀬川菊之丞。歌舞伎舞踊と座敷舞との密接な交流がうかがえる興味深い一曲です。山村流六世家元山村若が自身の振付で全曲を披露します。

長唄 影法師

昭和の作品。茶人高橋箒庵作詞、作曲は人間国宝で東音会初代会長の山田抄太郎。いつも連れ添ってくれる影法師に寄せて、男女の仲を唄います。京舞井上流五世家元井上八千代がはんなりした女舞で第一部を締めくくります。



弧の会



第二部 午後4時30分開演

長唄 二人狸々

狸々は酒を好み水中に住まう想像上の生物です。美しい月夜に、尽きぬ酒を酌み交わして狸々舞を舞います。技巧的な足運びも見どころです。直派若柳流の若柳吟と若柳吟寿々の師弟による格調高い祝儀曲で第二部の幕が開きます。

清元 文売り

近松門左衛門の「姫山姥」二段目、通称「しゃべり」の場面より、梅の枝に恋文を結び売り歩く京・島原の太夫が廓話を面白く展開します。意欲的な舞台活動で知られる藤間良太郎は関西藤間流の重鎮、当鑑賞会に初出演です。

清元 豊後道成寺

中村梅彌は父で人間国宝、故中村芝翫より中村流八代目家元を継承。弟は中村福助、中村橋之助という歌舞伎一家です。豊後節風の創作を試みた豊麗な本曲を、初演の京屋(中村雀右衛門)のやり方ですとめる注目の舞台です。

常磐津 古山姥

花柳與は関西花柳流の大御所、傘寿にして益々舞踊への情熱を傾けています。昨年、幾度となく演じてきた山姥物の集大成としてつとめたこの「古山姥」で文化庁芸術祭大賞に輝きました。記念すべき作品の再演です。

創作 御柱祭

「日本の隅々まで日本舞踊を！」と男性舞踊家十二名によって結成された弧の会は、本年十五周年を迎えます。代表作「御柱祭」は長野県諏訪大社の御柱祭の臨場感そのままに、神に折り、祭りに熱狂する人々をエネルギーに描きます。

予約開始

9月11日(水) 午前10時～
(電話) 国立劇場チケットセンター [午前10時～午後6時]
☎ 0570(07)9900
☎ 03(3230)3000 (PHS・IP電話)
(インターネット) <http://ticket.ntj.jac.go.jp/> (パソコン)
<http://ticket.ntj.jac.go.jp/m> (スマートフォン)
※この公演はインターネット予約の際、座席選択をご利用いただけます。
※詳しくは上記ホームページをご覧ください。

窓口販売開始

9月12日(木) チケット売場 [午前10時～午後6時]
※窓口販売用は別枠でのお取り置きはございません
入場料金
一般 6,500円・学生 4,600円
(第1部・第2部セット割引 11,000円)
※障害者の方は2割引です(一般のみ)。※車椅子用スペースがございます。ご予約時にお問い合わせください。
一般のみの取扱い チケットぴあ ☎ 0570(02)9999 [Lコード: 426-204]
9月11日(水)より ローソンチケット ☎ 0570(000)407 [Lコード: 59342]

国立文楽劇場 大阪 日本橋駅 地下鉄千日前線 千日前通 徒歩約1分
〒542-0073 大阪府中央区日本橋1丁目12番10号
☎06(6212)2531(代) <http://www.ntj.jac.go.jp/>
地下鉄・近鉄(日本橋)駅下車7号出口より東へ徒歩約1分
※駐車場がございませんのでお車でのご来場はご遠慮下さい。